

GIGA スクール構想 一人一台端末（タブレット）アンケートに寄せられた声

尾北教職員労働組合

2021年5月26日（水）～6月11日（金）実施分

I タブレットの配備や使用状況について

① 新たに配備されたタブレットの種類と、配備状況についてお聞かせください。

- ・犬山市：Chromebook（児童生徒のみ）
- ・江南市：Chromebook（児童生徒のみ）
- ・岩倉市：iPad（児童生徒のみ）
- ・扶桑町：iPad（児童生徒＋教員分）
- ・大口町：Chromebook（児童生徒＋教員分）

③ 授業以外（朝の会や休み時間など）もタブレットを使用している（する予定がある）場合、その内容や頻度についてお聞かせください。また、それについての考えをお聞かせください。

- ・ タイピングの練習 週1～2回程度。タイピングに慣れて、文字入力の上昇スピードを上げていくと、授業で活用しやすくなると思う。
- ・ 朝の会の健康観察
- ・ 毎朝、登校したら全校児童が「心の天気」を入力する学校の決まりがあるので一応余裕のある日はやっている。
- ・ 心の健康チェック 一日感じたことを記すことができるので、教育相談に活かせる。しかし帰りは時間がない。
- ・ 時々。朝、心の天気をやっている。
- ・ 毎朝、朝の連絡をタブレットで伝達しています。
- ・ 朝 心の元気チェックと e-ライブラリー
- ・ 雨の日の休み時間 e-ライブラリー
- ・ 雨の日の放課に、たまに使っています。
- ・ 今のところ、授業以外での使用はしていないが、どのように活用すべきか分からない。
- ・ 週に1回ほど、休み時間に。
- ・ 休み時間は、教師の目が届かないので、動画やSNSなど、おもしろ半分に使って問題が生じる恐れがある。基本は、教師の指導のもとで使わせたい。
- ・ 朝会でのオンライン開催
- ・ 朝会を Zoom で実施。各会議（職員会、校内委員会など）、毎日の在校時間（タイムカードの代わり）
- ・ 集会を Google ミートで各教室で行う
- ・ 授業以外では使用していません。
- ・ 使用していない。
- ・ 現状全く予定がありません。
- ・ 便利でよいと思うが、自分で準備となるとできない。
- ・ 楽器演奏アプリを雨の日に休み時間に使用
- ・ 雨天時のタイピング練習
- ・ まだ使えていません。起動時間が短いといいです。

2 タブレットの学校で使用について

④ タブレットを学校で子どもに使用させることについて、どう思われますか。

⑤ ④で選択した理由や、子どもにとってのタブレットの使用についての考えをお聞かせください。

● 積極的に使わせたい。

- ・ これからの時代に対応
- ・ これからの時代を生き抜くために必要なツールとしての使い方を学ばせていきたいです。どの場面で使うか、というより、日常的な使い方を考えています。
- ・ これからの社会にとって、ICT活用は必然である。
- ・ タブレットが導入されたのなら、無駄にならないよう、しっかり活用すべきだと思う。そのためには積極的な使用が求められる。
- ・ コロナ禍で、対面せずに学び合いをするのに有効であるため。また、使用頻度が上がればその分子供がスムーズに扱えるため。
- ・ 今後、必須だからできるだけ触れさせたい
- ・ 紙媒体が多いことが好きじゃないから

● 効果のあるものに限って使わせたい。

- ・ これからの時代は、タブレットを使いこなせた方が圧倒的に生活が便利だから。
- ・ 適切な使い方ができれば活動の幅は大きく広がると思うから。
- ・ 子どもたちの意見を集約したり、ホワイトボードの代わりになるような学習のときには有効的な活用ができそうだと考えたから。
- ・ 子どもにとっては、これからの時代の学習には必要なアイテムだと思います。
- ・ 情報は今後の社会に必要不可欠で処理能力を高めることができたらいい。
- ・ 子どもたちの思考を深めるために、タブレットならではの利点をいかして有効に使える利用法を考えていくことが必要と考える。
- ・ 児童により、学習内容や進度が異なるので、新出漢字の学習やドリルの補充などは、タブレット学習が効果的と考え、使用しています。
- ・ 教育効果があがるのであれば使用したい。
- ・ 効果がきちんとでないと、ただのおもちゃ
- ・ 学校内で使わせることに限っては有効であると感じる。実際、教員よりも子どもたちの方がはるかに操作方法に優れている子が多いし、何より大人と違って感覚的に操作することで操作方法を学んでいるので。ただし、運用方法に問題がある。保管庫にしまわないといけなため、これが非常に困る。なぜなら、子どもたち一人一人のタブレットを保管庫から取り出したり、入れたりする時間が非常にかかるからである。加えて、教師も保管庫の開け閉めを行わなければ行けない。時間ももったいない。
- ・ タブレットで効果の高くなるもの、そうでないものがあると思うから。
- ・ タブレットをどのような場面で使用したらいいのか、まだ、よく分かっていないので、タブレットを必要とするときだけ使用したい。
- ・ ローマ字を打つ時などに差が明らかである。
- ・ 何でもタブレットと言うわけにはいかない。個別学習で使うことがあるが、ゲーム的になってしまうのが心配である。

- ・ 格差の拡大につながる危険性がある。
- ・ 基礎、基本の上に触れていくもの、体験学習や本物に触れる、地道に調べることなどが失われていくのは、本末転倒。
- ・ 全ての学習にタブレットを活用するのは、現在の回線の状態では不可能であると考えから。
- ・ 自分の能力不足と、低学年の子どもにとって必要性を感じない。
- ・ 手段と目的を混同させたくはないと思います。
- ・ 小学校の教育は、学力の基礎基本である「読み・書き・計算」の力を培うことを最優先にすべきだろう。タブレットについては、「新しい道具」くらいの捉えで、「とにかくタブレットを使う」でなく、「タブレットの方が効果的だから使う」という発想で、使う機会を限定して使った方がいい。でないと、タブレットに振り回され、肝心の学習活動が進められなくなってしまう。授業時数は限られていますからね。
- ・ 場面によって従来方式でやるのか、タブレットを使うのか、どちらが相応しいか考えた上で使っていくべきだと思うから
- ・ 1年生では、まず、パスワードの入力から個人差が多く、アルファベットを覚えることも大変。
- ・ 多くの学習で使えると良いが、小1では扱いが大変なので使用するのが難しい。
- ・ 低学年の子どもが1人でタブレットを使用するのは難しいと考えます。
- ・ 低学年は、具体的な者の操作による思考や手指を使う活動、道具の使用も発達を促すのに大事だと考える。
- ・ 特支の子の特性に応じて、意味のあるものになるときは使っていきたい。
- ・ 特支学級の性質上、タブレットに依存する傾向が見られる児童が少なくないので、バランスを考えて使用する必要がある。
- ・ 内容によっては効果的であると思うが、しっかりとルールを決める必要があると思う。
- ・ 不適切なものを見てしまわないか不安
- ・ 勉強は基本的にアナログでよい。タブレットに依存しすぎない方がよい。山名小では程ほどに使用されているように思う。
- ・ インターネットが普及し、便利な道具なので使用に賛成だが、遊びと勉強の区別はつけたい。
- ・ 身近なものにしつつ、視力に対する不安もあるので、タブレットとの向き合い方の距離感を考えたい。
- ・ 効果的な使い方がよいと思うからです。

● **できれば使わせたくない。**

- ・ 実際に書いたり、膝を交えた話ったりするの経験が子どもたちの健全な発達につながると思う。
- ・ タブレットよりも、子ども同士の触れ合い、学び合いに時間をかけたい。
- ・ 書くことが極端に少なくなるので、記憶の定着が妨げられる。調べたことで分かってしまったと児童が錯覚する恐れがある。

- ⑥ 子どもにタブレットの使い方や活用の仕方などを指導することについて、どう思われますか。
- ⑦ 子どもにタブレットの使い方や活用の仕方などを指導することや、機器のトラブルや不具合などについて、意見や要望があればお聞かせください。

● 不安はない。

- ・ 不具合があった時に、対応に時間がとられる。

● 少し不安がある。

- ・ 若くないので、新しい知識を覚えるのは、大変である。
- ・ 指導するための支援員が欲しい。
- ・ 今は教職間で扱いや指導力量の差がある。また、子供に使わせることが目的化してしまいやすい。いろいろなサポートが必要だとおもう。
- ・ 機器のトラブルに対応できるかとても不安です。
- ・ 指導するには、ラインズさんなど活用すると不安がない。機器のトラブルや不具合は困る。
- ・ まず教員分がきちんと配備されなければ指導がしづらい。パスワードの入力作業も大変なので、顔認証や指紋認証のできるものだと有り難い。
- ・ 土台づくりが大変
- ・ 他の学校の先生に教えていただいたり、校内の先生に見せていただいたことを使って同じことをするのは大丈夫（使用できそう）だけどその他は分かりません。
- ・ 分からないことが多く、研修が必要であると感じる。
- ・ キーがきかなくなるトラブルがあった。ちょっとしたことでも、トラブル対応しなくてはならなくなる。時間がかかり大変。
- ・ 回線が繋がらず、フリーズしてしまうため、授業で思うように使えない。
- ・ 現状では、集団で一斉に使用する場合、フリーズなどの不具合が生じ、授業時間を無駄に過ごしてしまう恐れが十分ある。「タブレットが入ったから使ってほしい」というのなら、サーバーの容量確保を早急に進めるべき。
- ・ トラブルや不具合に対処できる専任の職員が各校に必要

● 不安がある。

- ・ 校内の数回の研修で操作方法が覚えられないため非常に不安。実際、ついていけない職員が出てきている。その先生が決して悪いわけではない。急速に物事を進めすぎていることに問題を感じているし、現場に丸投げしていることがそもそもの問題である。
- ・ 機器の不具合があると、操作方法に慣れている人にわざわざ聞かなければならないので時間がもったいない。また、相手の時間も奪うので申し訳ない気持ちもある。
- ・ 回線が弱く、一斉に学習に活用できないのは非常に不便。トラブルが発生した場合に別の学習の準備をしておかないと動かなかったときに何もできない。
- ・ 担任1人しかいない場合にトラブルが発生してもすぐに複数に返答ができるわけではなく、対応しにくい。
- ・ 自分自身がインターネットやiPadの操作に全く自信がない。
- ・ 指導する自分が、十分理解できているか、自信がなくうまく教えたり使ったりできるかが不安です。

- 使い方や活用の仕方を指導する時間を生み出せません。
- 困ったときにすぐ助けてくれるスペシャリストがずっと学校にいたらとは思いません。
- YouTube へのアクセスに強めに制限をかけてほしい。現状、大人向けアニメーション（オタク向けのもの）等、きわどい動画も教室で見られるようになっている。モラルだけでは児童の好奇心を制限できない。
- 子どもの柔軟性についていくのが大変。機器のトラブルなど自分では対応できない。全員が集中して使うとすぐ不具合が起きるがなぜでしょう。ルーターの能力かな？とにかく重くなる。
- 自分自身、使い方に慣れておらず、分からないことが多いので、他の先生に頼り切りになってしまう。
- 家庭によっては既に自由に使っており使いこなせてしまうが、できない子は全く分かっておらず、教師側がどれだけ説明すべきか分からない。昨年度どれだけ指導したかも担任によって違い、分からない。
- みんなでドリル学習をしようとする、繋がらないことが何度もあり困った。
- フリーズ、未充電、通信できないなど、使うたびに大小の不具合が発生し、「ちょっとまってね」「ごめんね」となる。
- 担任が個別に対応するのではなく、専門窓口を作り、一括して対応してほしい
- クラスで使用しようとするにつながらない。環境が整ってなくて使えない。
- 子どもの方が、使用方法を学ぶスピードが速く、自分は指導や不具合の対応はできない。

⑧ 校内での研修について、意見や要望があればお聞かせください。

- ・ 業後の休憩時間を奪われてまで研修（伝達講習）があることに不満がある。しかも、その研修だけで習得することは難しい。伝達者は、伝達するまでに何回も操作をしてみてもある程度熟知できる段階になっているわけだが、それをどの教員にも求めるのは難しい。
- ・ Google classroom の使い方とか
- ・ いろいろな使い方を教えてもらえるのでありがたいが、自分が授業で使えそうだと思えない。
- ・ こんな機能もありますよ～だと結局、使う人、使わない人と出てくる。研修の時点で、これを使ってくださいだと、クラス差なくできるのでは？
- ・ それぞれが勝手に進めると、放置状態。どのように使わせるのか、ルールはどうすべきか、といった話し合いもない。
- ・ タブレットに詳しい方が教えてくださらないと結局活用までに至らない。
- ・ 教師用の Chromebook がないと児童と同じことがしにくい。
- ・ 職員に対する研修が必要だと思うが、実際には自分にはタブレットが配付されていない。
- ・ タブレットの操作方法や、活用した授業展開などを知りたい。
- ・ できるだけ時間をとってやってほしい。どう使うかだけでなく、子どもにどんな力をつけるためにどう使うかまで、話し合いたい。
- ・ 一つ一つ覚えていきたいので、基本的なところからお願いしたい。
- ・ 基本から教えてほしい。研修のレベルが高すぎる。恥ずかしくていまさら聞けないこともある。
- ・ 基本的に、子どもの方が順応も早く、教員集団よりも児童に生徒集団の方がいろいろな使い方を見つけるように思う。研修は単純な機能紹介に留まらず、子供に端末を与えることで起きる生活の変化に対応していくためのものであって欲しい。
- ・ 研修する機会を増やしてほしい。
- ・ 研修の時間もない。
- ・ 研修はほとんど行われていないです。
- ・ 時間確保が難しい。
- ・ 実践的な内容の研修を校外から講師を招いてして欲しい。
- ・ 授業（各教科）でのタブレットの有効的な活用方法を具体的に教えていただける機会があるとありがたい。
- ・ 習うより慣れろ慣れるが今は必要、その時間がほしい
- ・ 低学年と高学年で分けられるといいと思う。
- ・ 定期的に行ってほしい。タブレットを使った授業の紹介
- ・ 研修の機会があれば受けたい。
- ・ オンラインでの研修のためとして、先生全員が、会員登録させられ、個人情報を入力しなければならないことに違和感を覚えた。

⑨ あなたの学校には、ICT 支援員が配置されていますか。

⑩ ICT 支援員について、意見や要望がありましたらお聞かせください。

※ICT 支援員・・・授業に直接入り、タブレットを使った授業の支援をする人

● **配置されている。**

- ・ 常駐してほしい。
- ・ もっとたくさん授業に入ってほしい。
- ・ 支援員の授業を増やしてほしい。
- ・ 回数を増やしてほしい。
- ・ 週に 1 回きて欲しいです。
- ・ 犬山市の学校は、専門企業のラインズの方が I C T 支援員として授業に直接入り、支援してもらえるので、トラブルへの対応や指導法などでの確にアドバイスしてもらえる。あとは、タブレットを使うときには極力入ってほしいので、支援時数や支援員の拡充が必要になってくると思う。
- ・ ぜひ専門知識のある ICT 支援員を活用してほしい。

● **配置されていない。校内の情報担当の先生等がサポートしている。**

- ・ 現場に丸投げしているので、常勤の ICT 支援は必要。ICT 支援員ならすぐに聞けるし、操作方法やトラブルにもすぐに解決してくれるので（それが仕事なので）、非常に助かると考える。
- ・ 軌道に乗るまでは一括してやってほしい
- ・ そういう人が欲しい。
- ・ 各校 1 名配置してほしい。情報担当が忙しすぎる。結局担任まかせになっている。
- ・ 可能ならば、学校につき 1 人配置してほしいです。
- ・ 特別支援学級に合うアプリや使用の仕方があれば、教えていただきたいです。
- ・ 江南市にも来ていただきたいです。

● **配置されていない。自分（学年・教科）で行わなければならない。**

- ・ タブレットという道具だけでなく、サポートする人も学校に入れるべき。担任任せでは多忙化につながる。
- ・ ぜひ、複数人配置していただきたい。
- ・ ICT の活用は、専門性が必要。専科のような扱いで進めてほしい。
- ・ 端末の保守や設定、基本的な操作について児童への指導など、ICT 支援員がいないため、教員の負担になっている。
- ・ どんどん増やしてほしい。
- ・ 家庭の I C T 使用状況により、児童の技能格差が大きいので、各校に常駐する I C T 支援員を配置してほしい。
- ・ ICT 支援員がいていただけたら大変ありがたいと思う。
- ・ ぜひ配置していただきたい。

3 タブレットの家庭利用について

① タブレットを家庭に持ち帰り使用することについて、どう思いますか。

② 上記を選択した理由や、タブレットの家庭での使用について、考えをお聞かせください。

● 賛成

- ・ 課題や家庭学習の指示や用意、学習状況チェックに関しての教員の負担が大幅に削減出来るため
- ・ 家庭の経済状況によるICT格差をなくすため。日常的にタブレットを使用できる環境をととのえるため。故障や紛失が心配。
- ・ 夏休みにタブレットを持ち帰らせたいが、充電コードも持ち帰らせる必要があり、タブレットをしまう学校に設置した箱からコードを出すのが大変。もう一度挿すのも大変。

● まあまあ賛成

- ・ 使いたい人はいいのでは？
- ・ 持ち帰り、それで家庭学習できるのはよいが、故障など不安要素も多い。
- ・ 家庭学習に活用できるから
- ・ 家庭でも慣れてほしいから。
- ・ 書くのが苦手な児童でも、積極的に学習に取り組むことができると思うから。
- ・ よく分からない。
- ・ 今後、教科書がデジタルになれば持ち帰りが必要になると思う。
- ・ 持ち帰りは、小学高学年ぐらいからが良いと思う。低学年は直に人と触れ合いながら成長していく時期だと思うから。
- ・ しっかりとルールを決め、家庭でも協力をお願いしていく必要があると思う。
- ・ ゲームとしてしか使わないということもあるとのことで、なにかルールを定める必要があると思います。
- ・ 持ち帰ったが、どのようなことに使用できるかを十分に理解できずに、使用せずに終わった、と話す児童がいたので、使用目的を決める必要があると感じた。
- ・ またいつ休校になるか分からないので
- ・ 全ての家庭にwifi環境が整っているとは限らないから。

● あまり賛成ではない

- ・ 家庭まかせになってしまいそう。タブレットがゲーム機として使われてもわからない。
- ・ ゲームなどに使用することが予想されるから。家庭のネット環境で、学力に差ができるだろうから。
- ・ スマホ脳、という話題も出ています。とくに小学生が長時間、触れることは逆効果になるのではないか？
- ・ 家庭での環境が異なるので、ゲーム機になってしまわないか、心配です。が、あまり接する機会がない児童には、慣れるためのよいかもしれません。
- ・ 児童はもとより、保護者が遊びに使う家庭があることも周知させてほしい。
- ・ 正しく使いこなせるか疑問だから
- ・ タブレットをもって帰って使える環境がどの程度整っているのかという点が気になります。
- ・ 故障・破損のおそれがある。

- ・ 破損やルール外での活用があるのでは
- ・ 持ち帰りに際して、破損を十分に気をつけさせることは大切だが、そもそも持ち運びする際、破損は起こりうることである。それを保障するのが難しい！一律に市でやって欲しい！
- ・ 家庭に持ち帰るまでがとても不安です…。
- ・ 学校で活用するタブレットを家庭に持ち帰って、管理しづらくなると感じる。
- ・ 使用の仕方や、持ってこないなどの不安が残る。
- ・ 家庭での学習を強要されるようで嫌だ。プライベートな時間なので、個々の家庭の経済力に応じて、好きなように学習するべき。どこまで国に管理されなければいけないのか？疑問である。
- ・ 家庭へ持ち帰る場合は充電をいつするのか、壊れた場合はどのように対応していくのかなど、共通理解を図るのが難しく感じる。そうしたきまりや対応がきちんとしてからなら学校でも家庭でもたくさん使用できるようにしていきたい。
- ・ アカウントさえあれば家庭用端末で十分対応できるから。
- ・ タブレットでの選択式の問題は面白がってやれてよいが、漢字練習など書いて勉強することを面倒がる子が増えそう。
- ・ まだルールが徹底できていない。
- ・ 本来の学びは、子どもどうしの集団での学び合いでこそ、意欲がわき、豊かな学びにつながると思う。タブレットを使うにしてもグループ活動の際に使うとかできれば効果的だと思う。家庭での使用は、個別学習なので、不登校や休校中など、持ち帰る機会を限定した方がいい。普段からの家庭での使用は、ユーチューブやゲーム漬けになる可能性が大きく、保護者も困るだろう。
- ・ そもそも学ぶのは学校ですること（オンライン授業以外のことですよ）
- ・ 感染症により、休校が続くことを想定して、リモートでやりとりできるようにしておく必要を感じる。
- ・ 学習に必要ななら仕方ないが、破損したり、目的以外のことに使用しないか心配。個人情報が出ないか不安。
- ・ 使用する際の自由度が高すぎる。

● 反対

- ・ 学校のものは校内のみで使用させたい。
- ・ 校内限定に留めるべきである。もし、家庭での使用を認めたとき、その監督は保護者であり教員ではないようにしてほしい。家庭内の問題を学校に持ち込んでほしくはない。
- ・ 学校で使わせるのであれば、学校側に責任があるし、それを持ち帰らせて家庭で使った場合はやはり責任は家庭にあると感じる。
- ・ ゲームや動画視聴など、遊びに使うことが想定される。子どもはネットの世界ではなく、リアルの世界でこそ、学び体験すべき時期。
- ・ 家庭での使い方や管理など、保護者の新たな負担となる。
- ・ 実際、県外で自宅に持って帰ったタブレットを使って、セキュリティーをかいくぐり学習と関係のないことに使って問題になった事例がある。いくらセキュリティーを厳しくしようがそれをかいくぐる方法があれば意味がないし、その対策がたちごっこになる。

⑬ 学校や家庭でのタブレットの使用のルールについて、意見や要望があればお聞かせください。

- ・ 端末があることで、端末を使用したことによるトラブルや問題行動は今後増えると思う。それらを機器のせいにして制限をかけたりするよりも、使う側のリテラシーを育てる方向性でありたい。授業中に教科書でパラパラまんがを書いていたからといって教科書を使わないという指導にはならないのと同じように考えたい。
- ・ 最終的には自由に使えるのが理想。
- ・ タブレットに振り回されないよう、適正な範囲での使用制限をしたい。
- ・ タブレットは役に立つ面もあるが、一步間違えれば、依存症や引きこもりにもつながる危険な道具。自己責任にするのではなく、使用時間などのルールを、学校が責任をもって定めるべき。子どもの体験を守る意識が必要。
- ・ 緩めにフィルターをかけて欲しい。未成年がみてはいけなようなものが見れないようにしてほしい。YouTube 等は見れてもいいと思う。
- ・ YouTube などの利用制限
- ・ 可能ならば、指定時間以外は使えないようにするなどできればよいと思います。
- ・ スマホ安全教室と同様なルールが必要だと思う。
- ・ 基本的には学習内容として活用していくため、ゲームなど必要のないことには使用しない。ゲームなどに使わないというルールを徹底したい。
- ・ 使う時間帯、使い方、ネチケットなど、タブレット使用に関する基本事項の共通理解を前提にスタートする必要がある。
- ・ クラスによって使用場面や頻度がさまざま、子どもから不満が出ているよう。基準が必要かも。
- ・ ゲームや個人的な動画の視聴の制限、利用時間（深夜の）禁止などの必要性があるかも知れない。
- ・ ただルールを押し付けるのではなく、一緒に作っていくような姿勢が必要。モラルの学習も必要。
- ・ 学校でルールが 100%浸透してから家庭に持ち帰るべき。家の人へ見せるパフォーマンスなんていない。
- ・ 目的にあった使い方ができないのであれば、使用禁止にしてもよい。大人が（厳しすぎない最低限の）ルールを提示して、それが守られないようなら使用するに値しない。

また、学校（市町教育委員会）から支給されるタブレットに限らず、今、家庭での携帯電話やスマホ、オンラインゲームでのトラブルが続出している。これは、与える側の責任である。

⑫の設問でも書いたが、家庭での問題は家庭の責任において対処すべきである。

もちろん、今回のタブレットも同様である。

- ・ 全て家庭の責任で
- ・ 親の教育力が問われる。
- ・ 家庭で約束を決める、子どもの使い方を見守れる、家庭にタブレットを持ち込むことを認めるなど家庭でどのように考えているかを調べる必要があるのではないか。
- ・ 故障した時の責任問題や家で使用したくない家庭への配慮
- ・ 家庭では、保護者が使用の仕方をきちんと把握してしることが必要だと思います。
- ・ 細かいルールが必要だと思う。

⑭ その他、GIGAスクール構想やタブレットについて、意見や要望があればお聞かせください。

- ・ 教師個人のスキルアップが必要となるので、多忙化が進む。自分自身じっくりと使い方について勉強しようとは思っている。もはやタブレットを使いこなせないと担任はできないというのが現実であろう。
- ・ 今後学習していきたい。
- ・ 管理職の腰が重く、ほとんど活用が進んでいません。管理職の方々にも実際に手に取って活用をしていただきたいです。
- ・ かえって、現場の負担が大きくなっている。
- ・ 段階的にと進めてほしいという要望はあっても、授業のコマ数は変わらないのにタブレットの使い方を教えて、授業の取り組む量や行事の精選がされていない状況でやってほしいというのは難しいと思う。
- ・ 回線が整っていない状況で進めてくださいと言われても授業にならないのに、使いようがないと感じる。
- ・ 子どもにイヤホンとタッチペンを用意するよう手紙が出たが、自分は何に使うか分かっていない。用意させるからには使わないといけないが…と不安。
- ・ 教員にもタブレットがないと、教材研究もできない。教員も1台配布をお願いしたい。
- ・ GIGA スクールのための、予算や人的配置をして欲しい。保守に入っておらず、故障した際は余剰分での対応となっているので、保守に入って欲しい。
- ・ 情報担当の負担が大きすぎると思います。設置や配線、初期設定も外部にお願いして欲しいです。
- ・ 学校（市町教育委員会）から支給されるタブレットは、保護者が買取にすればよいのではないか。今は新規のタブレットを使っているが、数年後、中学校を卒業した生徒のタブレットが小学校を入学する児童に配付される。中古感があるし、使い続けているがゆえ、トラブルも多く続出するのではないか。
- ・ セキュリティーを厳しくすることで調べ学習や資料提示ができないことがよく起こる。例えば、有害ではないサイトがブロックされることが頻繁に生じている。しかも、どのようなことが原因でブロックされるのか、何をすると（どんな言葉やサイトが）ブロックされるのか使用者側は分からない。
- ・ GIGAスクール構想は賛成だが、個人情報を守られるように配慮して欲しい！
「子どもにタブレットを使って調べ学習をしようにもできない」「教師が見つけたサイトの画像資料等を提示することができない」では本末転倒である。アプリだけ使わせればよいのであろうか。
- ・ アプリは、教育委員会が提示したアプリしかダウンロードできない（他に有効なアプリがあったとしても教育委員会に申請して許可が下りない限りダウンロードできない）。そのアプリも学習効果が低いアプリや「何に使うの？」といったアプリもある。また、新しいアプリが導入されるとその使い方の校内研修が開かれる。何とかならないだろうか。
- ・ ハード面よりソフト面の成熟なしで推し進められている現状は、大変危ういものと思います。
- ・ 性急に進めるのではなく、目の前の子どもにとってどういう指導が必要か、どういう使い方だといよいのかを職場で十分検討すべきです。進めるのは、文科省でも教育委員会でもなく、現場の私たち教員です。
- ・ GIGAスクール構想の、「ICTを活用した最適化された学び」は、一人一人がばらばらにされてしまう恐れがあるので、「学びとは何か？」を常に問いながらICTの活用を検討していく必要が

あると思う。

- タブレットは、使いこなす事が出来れば非常に便利である。例えば、自力での移動が難しくなった老後でも、自身でタブレットを使いこなして、買い物やオンラインで病院受診、親族や友人と気軽に繋がる事ができれば、楽しい(今、コロナ禍で、高齢者は外出や人との触れ合いの機会を奪われて寂しい思いをしている人が多いと感じる)。人生を豊かにするルーツとして、早い段階から慣れていく事は良いと思う。そういった意味で、学校でも家庭でもタブレットに触れて慣れて行って欲しいと思う。しかし、小学生は、人と直に触れ合いながら成長していく時期であり、タブレットの使用によって人との直に触れ合うコミュニケーションの時間を奪うなどデメリットも多い。高学年ぐらいからタブレットを経験しながら潜む危険についても知り、学んで行って欲しい。低中学年は、家庭でのタブレットは必要ない。
- 鉛筆を持って書いたり、考えたりする時間は大切にしたいです。タブレットは、必要に応じて使用するのがよいと思います。
- ICT 技術という流行に流されず、子どもの現実という目の前を大切にしたい教育をしたい。
- オンライン授業は新たな教育格差をもたらしてしまう可能性がある。
- タブレット等に過度に依存すると子ども達の記憶力が衰え、考えることをやめてしまうことが考えられる。また、今、大学生の卒論でコピペが問題になっており、本を読むことが減ってきているのは大きな問題である。